

Akatake Times

吹く風が心地よい季節になりました。
ゴールデンウィークは楽しく過ごせましたか？
体調管理に十分注意しながら、夏に向けて頑張っていきましょう！



『めだか』

数匹のメダカが元気に3Fで泳いでいます。

赤色が「楊貴妃」、青色(白色)が「幹之(みゆき)」という種類です。

先日、子メダカが約10匹孵化しました。(まだまだ増えるかも！?)

仕事等で疲れた時は、ぜひ癒されにメダカに会いに来てください。



撮影日時：2018年 5月 7日

撮影と文：営業部 本社営業 原さん



◆何を伝えていけばいいのか・・・研修時に再確認すること

うらうらとした春を迎えました。

やがてやって来る猛暑を前に自然と共存できるホッとした季節です。自然の香りはまた格別です。

さて、この4月に我が社は、5名の新しい社員を迎えることができました。

人材確保が難しいこの時期に入社いただいたのは大変ありがたいことです。なにせ、一人一人個性を持っている“オンリーワン”が5名揃ったのです。それぞれがそれぞれの人生を歩いてきた経験は、きっと先輩たちにいい影響を与えてくれるでしょう。

そう、先輩は敬意をもって後輩に接していかなければと思っています。

しばらくは、研修という名のもとに基本的な仕事を学んでいくこととなります。私も半日、新入社員諸君の研修に携わりましたが、いつも悩むのは何を彼らに伝えていけばいいのかです。私の生い立ちを含めた自己紹介と68年生きての人生観、我が社のミッション・経営理念・行動指針・スローガンについて、会社のマークと社名の由来について、企業とは、働く心構え、我が社を取り巻く人々のこと、マズローとハインリッヒ、等々。

この中で、とりわけ伝えたいことは、お金で償う責任を取らなくてもいいから責任感是十分持ってほしい、失敗を恐れず大いに挑戦してほしい、感謝・感動・感激・達成感、人罪になるな、ハウレンソウの徹底くらいでしょうか。

研修時に、このようなことを私も再確認するのです。まさに教育ではなく、共育なのです。

◆故 三輪茂雄先生の講演より、「大阪城の火薬庫について」

海外では、「Powder」を辞書で引くと「火薬」が出てくるそうです。

またまた、故三輪茂雄先生にまつわる「こな」の話です。

日本では、火薬という単語はどうもタブーになっていたキライがあったようです。

1999年5月、三輪先生がある会に招かれ、「大阪城の火薬庫について」と題した講演をされました。



『火薬庫は、焰硝蔵です。』

『1946年に蓮如上人が石山本願寺を建立しました。大阪城の前身です。蓮如上人の没後、1543年に鉄砲が種子島に伝来、1549年に本願寺の仲介で種子島時堯から将軍足利義輝に献上されます。日本は伝来後、20年で世界一の鉄砲保有国になります。』

『現在の歴史の中には鉄砲の話しか残っていません。火薬の話が抜けています。なぜか？不都合だから隠したみたいですね。昔、古い家の縁の下にもぐってほこりをかぶった白い結晶を集め、これを炭火にくべて、パツパツと美しい花火を出す悪童の遊びがありました。この白い結晶が火薬原料として珍重されました。日本の家屋(汲み取り式トイレ)と、気象条件で縁の下で硝化菌の分解生成物の硝酸アンモニウムが土に浸透し何十年の間に濃縮、結晶化する。それが炭酸カリウムと反応し硝酸カリウムができるわけです。』

この火薬の作り方は、本願寺が教えました。古文書にでています。』

『真っ先に火薬で鉄砲を撃ったのは、1575年の長篠の戦で織田信長と云われていますが、それは間違いで、上杉謙信です。川中島でドカンと撃って音だけで信長はびっくりしてしまった、それが最初です。火薬製造秘伝が謙信に渡っています。新潟方面を歩くとわかります。田んぼに榛の木(ハンノキ)がいっぱい並んでいます。榛は、火薬の炭をつくるのに最高によく、謙信が植え、今の越後平野に残っているわけです。謙信は、1570年に本願寺の仲介で越中の五箇山に技術者を派遣しその後すぐに信長と銃撃戦をやります。』

『火薬の製法は、西洋から教わっていません。トイレ近辺からとれる硝酸カリウムだけでは爆発しない。では、カーボンは？それは、竈(かまど)からです。』

以上、断片的に三輪先生の談話から抜き出したものです。興味がないとなかなか知ることができないことがいっぱいあります。一度、「本願寺文章」を見てみたいものです。

◆努力して残るもの、努力しないで残るもの

作者不明ですが、いい言葉・・・

努力して結果が出ると、自信になる。

努力せず結果が出ると、傲りになる。

努力もせず結果が出ないと、後悔が残る。

努力して結果が出ないとしても、経験が残る。



ご安全に！！

代表取締役社長 赤堀 肇紀